



ひらかわ しみん シンブン

Vol.01 (創刊号)

平成30年2月1日(木)発行

ひらかわ市民新聞は平川市民記者による初の市民新聞です。

津軽舞台の日仏合作映画に主演

— 平川の小学生、夢は映画にまた出ることに —



出演した古川家(右奥から時計回りに)父・孝さん、姉・蛍姫さん、鳳羅くん、母・知里さん

偶然の出会いだった。弘前で行われたイベントの会場内で元気に走り回る古川鳳羅(たから)くんを、五十嵐耕平監督とフランス人映画監督のダミアン・マニヴェルさんが見つけた。「最初は映画に出演させる気はありませんでした」と、突然の映画出演の依頼を断ったという鳳羅くんの母・知里さん。考えを改め、話だけでも聞いてみようとする監督に会ったのはそれから

3日後。その1年後にはイタリアで開催された「第74回ヴェネチア国際映画祭」の大舞台に立つことになった。鳳羅くんは現在、平川在住の小学2年生。映画の撮影は2017年1月中旬から2月末まで津軽一帯で行われ、古川家も全員が劇中の家族として出演している。「カメラは見えない」「監督の指示に従う」「ゆっくり動く」の3つを守って撮影に

撮影秘話、そして映画完成

挑んだ鳳羅くん。難しいこととはなく楽しかったと笑顔で振り返る。

鳳羅くんが撮影期間中に高熱を出すと聞いたハプニングがあった。撮影は中止。自宅療養となった鳳羅くんだが、「撮影に行かなきゃ」と寝ることができず落ち着きもなかったという。そこへ見舞いに訪れた監督やスタッフから「休むことも大事」「早くよくなって」と言われ、安心して眠りについた。「不思議な関係が生まれている気がする」と知里さん。翌日にはすっかり熱は下がり、改めて撮影に挑んだ。

完成した映画はヴェネチア国際映画祭で初めてお披露目された。スクリーンに映る鳳羅くんの姿に成長を実感した知里さんは自然に涙があふれたという。一方の鳳羅くんは知里さんの手を強く握り、スクリーンに



日仏合作映画「泳ぎすぎた夜」
2018年4月初旬
全国順次公開
※2月24日よりイオンシネマ
弘前にて先行公開

映る自分の姿から目を離さなかった。

「映画にはまた出演したい」と鳳羅くん。「冒険ものが好き」と話す。映画「泳ぎすぎた夜」の公開はこれから。その瞳にはたくさん夢が広がっている。

満腹グルメ道 おぐら食堂 -カツ丼-

尾上地域にどのようなイメージをみなさんは持っているだろうか? 家々に立ち並ぶ生け垣や、春には桜、夏には蓮の花、緑豊かな猿賀公園。しかし、平川市内でも屈指の「定食屋」が多い地域ということをご存知だろうか? そして、どの店もシンプルなメニューにこだわりがあり、何度でも足を運びたくなってしまふ。その中で今回は「おぐら食堂」の紹介となる。

こちらの定食屋は1983(昭和58)年創業。ひらがなで書かれた「おぐら」の看板が目印で、店内はテーブル席と小上がりスペースに分かれる。家族連れから一人客まで、幅広い客層に親しまれているのが特徴だ。現在は、店主の小倉夫妻とその息子夫妻、従業員3人の計7人で営む。テレビや雑誌・ラ



ジオの取材もこれまで多くあり、有名な取材以外のプライベートでの来店もしばしばあるそうだ。



さて、今回オススメする一品は「カツ丼」。カツ丼に味噌汁、漬物がついて700円。オススメする理由は直球なコメントだが「おいしい」ということ。玉ねぎやシタケを卵でとじたカツは柔らかく、甘い。カツとごはんとの食べ合わせも申し分ない。みなさんにぜひ食べてほしい。

ちなみに店主一押しは、「ミソちゃんぽん」。冬期間限定で販売する「鍋焼きうどん」も根強い人気でオススメだそうだ。

(記: 対馬吾郎)

おぐら食堂
平川市高木原富 22-1 ☎0172-57-4711
営業時間 10時30分~18時
定休日 火曜

平川湯めぐり紀行 秘湯・古遠部温泉でユニークな入浴法

碓ヶ関地域の山奥にたたずむ温泉宿「古遠部(ふるとうべ)温泉」。奥羽本線碓ヶ関駅から車で15分程度の場所にある秘湯だ。2012年には旅行新聞新社会主催の「プロが選ぶ日本のホテル・旅館100選」で選考審査委員特別賞に選ばれ、全国から訪れる客もいる。



この温泉は源泉100%の掛け流しで、毎分500リットルもの湯が湧き出る。1.5リットルのペットボトルが1分間で300本以上溜まると紹介であれば、その湯量にイメージが沸くだろう。湯の温度は42~43度。長湯はとてできないような熱さで、冷え性や切り傷、五十肩に効能があるとされている。



古遠部温泉には豊富な湯量を生かし、湯船から溢れ出たこぼれ湯に仰向けになって寝転がる「トド寝」というユニークな入浴方法がある。この入浴方法をオススメする理由を同温泉代表の木村達夫さんはこう語る。「温泉が好きな方や遠方から訪れるお客さまに、できるだけ長く湯に浸かってもらいたいから」。この贅沢な入浴法を推奨する湯宿は、全国でもここだけなのではないだろうか。

古遠部温泉
平川市碓ヶ関西碓ヶ関山1-467 ☎0172-46-2533
営業時間 8時30分~20時(冬期間9時~19時)
入浴料 320円(子ども無料)

(記: 山内海斗)

～えんびと～
ENBITO
平川縁人

平川市にゆかりがあり、市内外で活動する人を紹介します

The Person who has the relation for Hirakawa

東京で活躍

尾上地域南田中地区出身
ソムリエ

工藤順平さん

1985年生まれ。弘前工業高校卒業後、ホテルニューキャッスルに入社。2012年にはJSAソムリエ・スカラシップで優秀賞(最高賞)に選ばれる。2013年、ホテルニューオータニに入社。「トウルダルジャン・ワインアトリエ」「自由が丘ワインスクール」にて講師も務める。



—なぜソムリエを志そうとしたのか？

ソムリエとは、飲食店におけるワインをはじめとした飲料の販売、管理を担当する仕事です。20代前半にレストランに勤務し、ワインに触れる機会が増えたことでサービスを提供する立場として、きちんとした商品知識を身につけたいと感じたため。

—ソムリエになってやりがいを感じることは？

ソムリエは料理人やバーテンダーと違い、「オリジナルの味」を造ることはできません。すでに完成されたワインにいかにか付加価値をつけてお客さまへサービスができるかが重要となります。提供温度や空気接触、グラスの形状と合わせる料理との兼ね合いなど、適切な提案をしなければいけないことにやりがいを感じます。

—ワインの魅力とは？

他の酒類が製造工程で仕込み水を使用するのに対して、ワインの液体はすべてブドウの果汁。だからこそデリケートであり、瓶詰後も熟成を楽しむことができます。また、ワインを通して人脈を広げることができることも魅力。ワインは人と人とを繋ぐすばらしいツールです。

—今後の目標は？

東京でキャリアを積んだのち、地元青森でのワイン文化発展に貢献したいことと、プロのソムリエの育成および一般消費者への啓蒙活動もさらに行っていきたいです。また昨年、日本酒に特化した認定制度「JSA・SAKE DIPLOMA」の資格を取得。ワインだけでなく日本の食文化全体の発展に貢献していくことを目標にしています。

(記：小野勝也)



青森から世界へ

尾上地域日沼地区育ち
アーティスト

GOMAさん

1986年生まれ。東北女子短期大学卒業後、保育士となるが、2012年にアーティストデビュー。2015年には「JAPAN EXPO 2015 PARIS」に出演するなど国内に留まらず、海外でも活動する。



—アーティストを志そうと思ったきっかけは？

23歳の時、「絵の勉強がしたい」と保育士を辞めて秋田公立美術工芸短期大学に入学しました。勉強はずっと苦手だったのですが、この時は「勉強がしたい」と思いました。在学中にスプレーアートに出会い、毎日100枚以上を独学で学び、ファッションビルからの依頼で常設展を開催。FacebookやTwitterで話題になり、半年後、アメリカマイアミから招待を受け渡米。帰国後ライブアートショーのオファーが来るようになり、大学卒業後プロアーティストとしての活動を始めることにしました。

—アーティストになってやりがいを感じることは？

0から1を作る作業に楽しさ、そして生まれてくる作品たちを見て、いろいろな人たちが喜んでくれるところにやりがいを感じます。



—アートの魅力とは？

さまざまなアート作品があり、制約はないからこそアートです。そこにはファンタジーがあることだと思います。

—今後の目標は？

現在は青森県を拠点に日本全国、海外に向けて作品を発表したり、ライブアートや特別支援学校などでボランティア活動を行ったりしています。私の作品・考え方がいろいろな形でもっと世に出て、たくさんの人を楽しませてあげられたらいいと思います。たくさんの人を楽しませる作品を発信していきたいです。

(記：量指謙自)

平賀地域小国地区と弘前大学の交流とつながり

みんなの活動

平賀地域小国(おぐに)地区では、夏の宵宮に弘前大学の学生を招待し、交流の場を設けている。招待を受ける学生は、同大学の「へき地教育研究会Clove(以下、へき研)」のサークルメンバーとなる。

へき研は現在38人のメンバーで構成され、主に生徒数の少ない学校のイベントに参加・協力といった活動を主にしている。小国地区とは10年以上に渡って関係が続いており、現在は小国地区の宵宮で子どもたちと肝試しやスイカ割りなどをして交流を深めている。

このつながりのきっかけは、平川市が実施している「コミュニティ助成事業」である。同事業は市の補助金を活用して地域の活性化を図ることを目的にしているが、大學生を招待するといった活用方法は市内でも小国地区のみ。当初は、小国小学校で寸劇を行うといった活動もあったという。

現在、小国小学校は廃校となっているが、それでも交流が途切れることはなかったことから、へき研と小国地区の絆の深さが感じられる。へき研代表の三浦良さんは「小国地区との交流を通して教育実習では感じることができないような子どもたちの素直な一面や貴重な経験を待っています」と話す。

小国地区の子どもたちにとっても地域外の若者と交流できることは、新たな価値観を得られるきっかけの一つになっているのではないだろうか。

(記：齋藤舜也)





平川建物探求

農家蔵と古代ギリシヤ建築の装飾の調和

尾上地域金屋地区には78棟の農家蔵が群立しており、周囲の生垣や庭園と調和して美しい農村景観が形成されている。その中に、古代ギリシヤ建築の独立円柱にとってもよく似た装飾の蔵があった。

蔵の装飾は、古代ギリシヤ建築における建築様式(オーダー)のひとつであるイオニア式に似ており、ドリズ式・コリント式とならんで主要な様式(オーダー)になっていた。自身が中学校の

(記:松田公平)



尾上地域によくある農家蔵には個性的な装飾がされている蔵が多いが、気づく人は少ない

古代ギリシヤ建築のイオニア式に相似する柱。渦巻き型の柱頭に細身の柱が特徴



に位置づけられる。イオニア式は、渦巻き型の柱頭と細身の柱で構成され、優美で女性的な印象が特徴だ。蔵の所有者である小野長道さんによると「元々は尾上地区に建っていた蔵を、約50年前に現在の場所に移築してきた。当初から柱の装飾はされているようだった。見ることができない、雪景色のなかに照らされる農家蔵と古代ギリシヤ建築の装飾の調和を楽しむことができる。

頃の出来事で、当時の様子

を覚えている」と話す。

金屋地区の農家蔵群では、今年はずでに終わってしま

ったが、毎年1月下旬に国

登録有形文化財に指定され

ている蔵がライトアップさ

れるイベントが一日限定で

開催される。平川市でしか

見ることができない、雪景

色のなかに照らされる農家

蔵と古代ギリシヤ建築の装

飾の調和を楽しむことがで

Vol. 1

アップルランド 大観音像のなぞ

平川市民であれば、日常の中で何気なく目に入ってくるアップルランドに佇む観音像。なぜあの場所にあるのかご存知だろうか？

アップルランドの営業担当で入社12年目のベテラン・戸聡志さんによると、正式名称は「りんご大観音像」とい、1983(昭和58)年建立、高さ約16m、総工費約1億円とのこと。制作したのは、戦後初の大仏を制作した平安美術研究所(所在地:兵庫県・株式会社社平安美術)。観音像を建てたのには、「りんごの運搬中に交通事故により命を落とした女孀の供養」「交通安全への悲願」「りんごの豊作祈願をするため」という初代社長の葛西甚八氏の願いが込められているという。



りんごを手にした観音像

最近海外でも人気!?

観音像がリンゴを掲げている理由に納得したところで、実は台座の中にも入れるんだとか。十二支別の守り本尊・子安観音が安置されており、参拝すると、良縁・子宝・安産・健康・長寿・大願成就を賜ることができるという。最近では、台湾ドラマのワンシーンに使用されたり、海外の旅番組等に取り上げられたりと、国内のみならず国外でも人気も出てきている。



りんご大観音像・台座の中

市民の知る人ぞ知るパワースポットのような存在であるりんご大観音像。無料で見学や参拝することもできるので、この機会にアップルランドまで足を運んでみてはいかがでしょうか？

(記:稲葉佑太)

みんなが感じる疑問を調べる

ひらかわ調査団

Vol. 2

平川おもちゃ病院 つて何?!



毎月第2土曜日午後15時からアップルランドで定期開催している平川おもちゃ病院。院長の鎌田正信さんに聞いてみました。

平川おもちゃ病院は2013(平成25)年3月3日に設立。おもちゃ病院では原則無料でおもちゃを修理し、新たな価値を生み出すボランティアグループのこと。現在、全国に600カ所あり、日本おもちゃ病院協会が認定するおもちゃドクターは1400人以上。平川おもちゃ病院は県内5番目のおもちゃ病院として開院し、おもちゃドクターは現在10人。壊れたおもちゃの修理だけでなく、子どもたちと共に生き返ったおもちゃを喜び、科学する心と創造性を養うだけでなく、モノを大切にする意識の向上とリサイクル活動に協力することを目的とし、活動しています。鎌田さんは「現代は100円でするいろいろな物を買え、壊れたらすぐに棄ててしまう時代。『もつたない』を合言葉として、おもちゃの修理を通じ、ごみの減量やリサイクルなどの環境に興味を持ってほしい」と話す。

ゴミゼロ ゴーゴーゴ?

おもちゃ病院の荷物を運搬する木製台車に「平川530お・5-55」のナンバープレートが付いています。これは「平川のゴミゼロ(530)おもちゃ病院(お)ゴーゴー(5-55)」という意味です。もちろん、車検はありません。(記:船水徳生)

【お問い合わせ先】
平川市社会福祉協議会内
☎0172-44-5937



ひらかわ古今

—平川の今と昔を振り返る—

尾上地域

2017年の猿賀神社十五夜大祭は10月3日から5日までの3日間開催された。観月祭は4日の19時から小雨が降る中で行われ、鏡ヶ池のほとりの高浜虚子の句碑の横に祭壇が設置された。神職の太鼓、龍笛(りゅうてき)の演奏を聴いていると



観月祭の様子。祭事に雲の合間から満月が現れた。

観月祭の後に、拝殿に向

かつて大幟(おおのぼり)の奉納行列が行われたが、今年短かった。同神社の宮司・山谷敬さんによると、「以前は北海道の崇敬者」

碓ヶ関地域

「鬼」、「ヘッチョ(おへそ)」、「弁慶」など。碓ヶ関地域には、さまざまな符丁(ふちよう)があります。符丁とは、その仲間だけに通じる言葉・隠語を意

味します。いわゆる「あだ名」です。昔、碓ヶ関に關所があつた時代に地元の人々が、通行手形を見せなくて「あだ名」で関所を通つたためという説も伝えられています。

「鬼の嫁」と呼ばれるように

なりました。

しかし、その家が「鬼」と

呼ばれる理由があります。昭和30年代は近隣住宅が臨時民宿となつたり、境内にサーカスや見世物小屋が建つたり、小学校は宵宮の午

の体が大きく、力持ちで、

後から一日半休校になつた

め、「鬼」という「あだ名」

ので、皆ワクワクしながら

が付いたそうです。「鬼」は

大祭を心待ちにしたものだ

必ずしも悪い意味ではない

つた」と話していた。

ようです。

(記:大川けい子)



(記:船水徳生)

(記:大川けい子)

編集後記

平川市民の平川市民による平川市民のための新聞といった内容で、昨年7月から始まった「市民記者養成講座」。ようやく新聞として形に残すことができました。

この新聞は「地域のために」や「地域の活性化」ではなく、平川の日常を記事にしてみんなで共有しようと始めた新聞です。事件や事故やニュースではなく、この地の魅力をみんなで見つけていきたい。そんな新聞です。

来年度も「ひらかわ市民新聞」は発行を予定しております。新聞作成に興味のある方だけでなく、この平川を改めて見つめ直してみたい、もしくは平川での暮らしをより楽しくしたい方はぜひご参加ください。

(編集部)



お知らせ

2018年4月以降は月1回のペースで集まり、平川の話題や調べてみたいことや昔から気になっていたことなどを話し合い、実際に取材をして記事にしていきます。取材の仕方や記事の書き方などもアドバイスしていきます。また、参加はしにくいけど取材してほしい人やお店、調べてほしいことといった情報提供だけでも構いません。詳しくは市のホームページや広報、回覧板などでお知らせします。

平成29年度 市民記者養成講座受講者

大川けい子、小野勝也、松田公平、工藤泰希、畳指謙自、菊池暢晃、船水徳生、工藤貴弘、一戸健児、工藤勇人、對馬吾郎、山内海斗、稲葉佑太、齋藤舜也

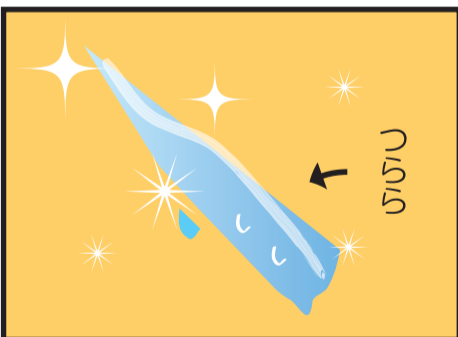
(敬称略・順不同)



発行部数 12,000部
編集 平成29年度 市民記者養成講座受講者
発行元 (お問い合わせ先)
平川市教育委員会生涯学習課
住所:青森県平川市光城2丁目30番地1
TEL:0172-44-1221
FAX:0172-44-8780
メール: shougaiakushuu@city.hirakawa.lg.jp

いっもひらかわ

「みんなも食べた?」恐怖の思い出編



※良い子はまねをしないでね♡